

テーマ：安全なプレー = 正しいプレー = 強いプレー

指導員3大ミッション（全学年統一）

- 安全にプレーさせるために、正しいプレー・ルールを理解して指導する
- こども1人ひとりに目を向け、こどもの成長に合わせて指導する
- 指導員自身の成長が、こどもの成長に大きく影響することを理解して指導する

2020年度主な取組み

○1年間の目標設定

- ・学年の指導員で **1年間の目標**を話し合い、目標を達成するための**計画**を立てましょう。
- ・目指すべき目標をこども達と共有する。また保護者にも伝えましょう。

○安全特化メニューの推進

- ・吹田RSの根っことして安全にこだわっています。各学年に設定した安全特化メニューを実施しましょう。

○正しいルールの理解

- ・試行的新ルールの導入など、ルールは変化しています。正しいプレーを教えるためにもルールを正しく理解しましょう。

【コーチ（Coach）】として（I）

コーチの語源は馬車を意味し、目的地に運ぶ役割を持っていることから現在のスポーツ界では選手を目標達成に導く役割として使われています。コーチングの基本は相手に自発的行動を促進させるためのコミュニケーションの技術です。「しなければならない」から「したい」に変え、自発的に動かすことを意味します。

【Good Coaching】（一例）

○少しの変化に気づき、少しでも成長したらほめる

⇒こどものやる気UP！ + コーチの信頼度UP！

○まずは見本を見せて、イメージをさせる

⇒いきなりやれ！と言ってもできないけど、見本を示せば子どももイメージがついて成功の可能性UP！

【Bad Coaching】（一例）

○子どもの失敗やできないことを、こどもや環境のせいにする

⇒言ったやろ！ なんでできないんや！ はタブー。できないのはコーチの指導力不足。

○（怒鳴るような）大きな声を出してやらせるのは考えられない子どもを作るだけ

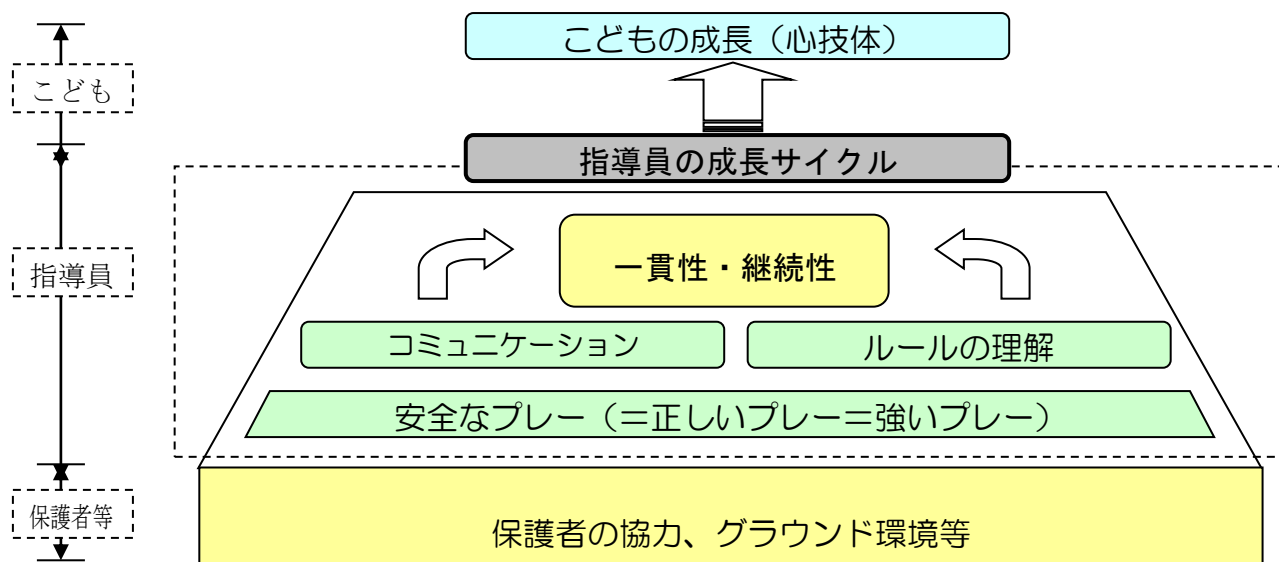
⇒コーチの言うことを理解させ、納得させて、自分で考えさせることが大事。それができないのに大きな声を出してやらせるのはコーチの指導力不足。子どもからの信頼度Down。

【コーチ（Coach）】として（Ⅱ）

スクールでの活動には保護者の方の協力が不可欠です。こどもを中心に指導員と保護者とが手をつなぎこどもの成長のために取組まなければなりません。その関係を作ることも指導員の1つの役割です。こどもだけでなく保護者とも信頼し合えるようコミュニケーションをとりましょう。

そして最後に、こどもが成長するために、指導員自らも成長していかなければなりません。学ばざるものコーチするべからずと言います。過去の経験だけで指導するのではなく、指導員自身が学び、成長することでこども達に適切な指導ができるようになります。指導員自身が成長サイクルを意識して取組んでいきましょう！

＜こどもを成長させるための取組みイメージ＞



【安全特化メニューの推進について】

吹田RSの指導として以下の点に注意して練習メニューを作成し、指導を行いましょう。

○安全なプレーのポイント

求めるプレー	実践のためのポイント
◎体の芯で当たる ・頭を下げない ・顔が逃げない ・姿勢が真っすぐ	◇頭を下げないためには ⇒相手を見る ⇒肩ではなく胸を当てる⇒そのためには足を近づける ◇顔が逃げないためには ⇒相手を見る ⇒自分の耳を相手の体に密着させる ◇姿勢を真っすぐにするには ⇒足を真っすぐ踏み込む ⇒相手と同じ胸を当てる
◎ケガをしない倒れ方 ・頭を打たない ・手をつかない	◇頭を打たないためには ⇒倒れるときにおへそを見る⇒体を横に向ける ◇手をつかないためには ⇒お尻や体の側面から倒れる

○制限事項について

ローヘッドや飛び込みタックルによる腕・肩等の負傷を考慮し、腰より下にタックルする練習は高学年からとします。理由として子どもは体幹と四肢の筋力（特に下肢）がないことから、膝を曲げて強い姿勢を作ることが困難であるためです。